

# 旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台 1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail: info@iki2life.com

## 11月例会ご案内

11月10日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 城野先生遺稿  
古事記中国語原本と翻訳  
第5回  
場所 : 港区商工会館  
参加費 : 1000円  
担当 : 郷津 光

これまでの古事記に関する論議を総括する意味で、城野先生が脳力開発の観点から古事記について書かれた『「古事記と人間」：脳力開発による歴史の解明』を読み取り、城野先生が古事記の中から何を受け止めておられるのか整理することとし、まず郷津氏に読んでいただき整理をして頂きます。それをもとに論議しましょう。

これまで以下の様に4回に亘って論議を進めてきました。

6月の例会では、榊原氏から城野先生遺稿「古事記中国語原本と翻訳」について、以下のような項目で説明がなされた。

1. 古事記とは
  - (1) 真福寺写本
  - (2) 本居宣長の翻訳とは
2. 城野宏先生の古事記翻訳
  - (1) 先生の古事記既刊本との時系列的関係
  - (2) 翻訳の目的
3. 城野宏先生の問題提起
  - (1) 序文と本文はつながらない
  - (2) 本居宣長翻訳の問題点
  - (3) 古事記と日本書紀の年代確定について
4. テキスト古事記(上巻)の発行者について

7月の例会では、石田氏のご好意によりスキャナーしていただいたテキスト古事記(上巻)の資料をそれぞれが読み感想や意見を述べ合いました。

石田氏の例会報告の要約は以下の通りです。

本原稿資料は、真福寺写本の中国語を翻訳したもので、上、中(原稿用紙83枚)、下巻(56枚)からなり、上巻のみが製本済です。面白いのは上巻の序で、古事記の序文は漢文で書かれているのに、本文は簡単な中国語で記されていて、内容に相違があり、つながらないなど、我々が学んできた古事記の認識とは違いがあるようです。

城野さんによれば、古事記は本居宣長が日本の古語を研究し、古事記の中国式漢字配列のそばに自分の知っている古語を当てはめたのが「古事記伝」である。全部が日本の古代語らしいものに置き換えられてあり、普通の人には分からない。古事記の研究というと、原本のやさしい中国語ではなく、難しい古代語訳古事記が、まるで本来の古事記の原本だと誤解されてしまったようだ。

城野さんは、古事記は難解で近寄り難いという先入観を突き崩し、古代日本人の生活内容を研究して、これまでの偽りの歴史から抜け出す助けにしようとしたのだと思います。この為に勉強会を立ち上げ、このテキストとして、上巻に引き続き、中巻、下巻と発刊したかったと思いますが、残念ながら先生が亡くなられたため、刊行は上巻のみとなっています。

9月の例会では、石田氏が参考資料を用意いただき、上巻に出てくる神々と命(みこと)、比売(ひめ)等の名前と系図を整理し説明頂きました。また、中巻に出てくる神武天皇以降神天皇までの天皇や王(おおきみ)、命、比売の系図表を整理し解説をされました。

更に10月の例会でも、石田氏から補足として、下巻の仁徳天皇から推古天皇までの系図表を提示いただきました。

これまでの論議で「古事記」そのものについてはだいぶ理解できたので、これを整理するために城野先生の著書「古事記と人間」を整理することといたしました。

# 9月例会報告

9月8日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 城野先生遺稿  
古事記中国語原本と翻訳  
第3回

場所 : 港区新商工会館

担当 : 石田 金次郎

上巻には沢山の神様が出てきた。その内容を理解するには、神々の系図の整理が出来ないと理解できないと思い、系図などを整理してある本を見つけた。2012年発行の学習院大学名誉教授吉田敦彦監修、島崎晋著「面白いほどよく分かる古事記」である。これを頼りに城野先生の翻訳をよみながら、上巻の内容を理解して、中巻を読んだ。

古事記は記であり、歴史を追って記述がされている。何を主張したいかを知るためには、その歴史を逆に追ってみるとハッキリしてくる。この上巻は、神武天皇、またの名、神倭伊波礼毘古の出自を言いたいのである。神倭伊波礼毘古は天津日高日子波限建鵜草葺不合命の子であり、その祖は、邇邇藝命であり、その祖は、天照大御神の子である正勝吾勝速日天忍穗耳命である。つまり、神倭伊波礼毘古は天照大御神の直系であるということを証明しているのである。

同じ天照大御神の弟である速須佐之男之命の系譜は、大国主の神であり、数々の神を輩出し、下界の国豊葦原を支配していた。が、高御産巢日神や天照大御神は、豊葦原は天照大御神の支配するところであるとして、建御雷命を送り込んで、国譲りをさせる。そして、任務を果たさなかった天之若日子は、天命に背いたとして、射殺される。正統に反逆すれば、裏切り者には天罰が下るという示しであろう。これらのことを言わんがために色々な挿話が入っているということが理解できた。

中巻は、神倭伊波礼毘古、またの名、神武天皇の国作り、初めの建国の事業は天下の政をとるために東征が語られる所から始まる。高千穂の宮を出発し、兄、五瀬命が落命した蓼津の登美毘古、宇陀の宇迦斯兄弟、忍坂の土雲、更には師木兄弟など諸処にいる軍事勢力を平定していく。高御産巢日神が草薙の剣、道案内として八咫鳥など遣わして支援している。このような神武天皇の戦闘は建国の過程での諸豪族間の争闘を物語化したのであろう。

神武天皇は、日向で娶った阿比良比売に二人の子、正后である美和の大物主の神の娘を娶った伊須気余理比売に三人の子がいた。が、天皇がなくなると、阿比良比売の子の多藝志美々の命が三人の謀殺をめぐらすという跡目争いが起きた。結果、伊須気余理比売の子、神沼河耳命が藝志美々の命を殺し、神沼河命が綏靖天皇として即位する。天皇の跡目がスムーズには行かない。謀略が付きまとうのである。神武天皇は137歳まで生きたとしている。

綏靖天皇から安寧、懿徳、孝昭、孝安、孝霊、開化の各天皇については、短い事歴を記し、各氏族の祖になっている事が短く紹介されている。崇神天皇の時は、疫病が流行し、その対策に大山主神を祭って疫病が止み国家が平安になった事や地方の豪族を平定したこと。垂仁天皇の時は、后沙本毘売とその兄が謀反を起こしたことや物の言えない御子のこと。景行天皇の時は、太子の倭建を使って、熊曾建、出雲建、東国十二道を平定したこと。仲哀天皇の時は、皇后神功皇后が新羅を下し、百済に役所を設けたりしたこと。応神天皇の時、様々な「部」を定めたり、新羅の人が池作りしたり、百済国王昭子王が太刀や鏡、論語10巻、千字文1巻など人と共に献上してきた。鍛冶屋や酒作りの須須許理たちがやってきたなど半島との交流があったこと、そしていつの天皇の御代には皇位継承をめぐって謀反・謀略などあったことが書かれている。

中巻は上記のような内容が書かれている。上巻の神話の世界から人間の世界へと変わってきている。

下巻は読んでいないが、大雀命またの名仁徳天皇から小治田天皇またの名推古天皇までである。仁徳、履中、反正、允恭、安康、雄略、清寧、顕宗、仁賢、武烈、継体、安閑、宣化、欽明、敏達、用明、崇峻、推古の18代の天皇の記録であろう。

吉川弘文館の歴史年表によれば、応神天皇の時代は4世紀頃であり推古天皇は6世紀末から7世紀である。

古事記の編纂を指示したのは天武天皇であろう。天智天皇の皇弟・大海人皇子は、天智天皇の皇太子に大友皇子を推挙しながら、吉野の山に籠もり、天智天皇が崩御した後、東国の豪族を従えて反乱を起こし大友皇子を自決に追い込み勝利し、自らは飛鳥浄御原宮を造って天武天皇として即位した。天武天皇元年(672年)が干支で壬申にあたるので壬申の乱といわれている。

古事記の序文には「飛鳥の清原大宮で云々」から「清原大宮で天位についた」の間にこの内乱の事態が述べられている。天武天皇としては、天皇の権威を内外に誇示すると同時に、自らを正当化する必要があったのは明らかである。その為に古事記の編纂をした。

序文に「朕がきくところによると、諸家で伝えている帝紀及び本辞は、既に真実と違ってきており、偽りが多い。いまそのまま間違いを改めなければ、幾年も立たぬうちに、その本旨が失われてしまう。これは国家の根本の筋であり、王化の基本である。だから帝紀を記録し、旧辞を検討し、偽りをけずり、真実を確定し後世に伝えようと思う。」として、側近の家臣の稗田阿礼により習わせた。その後、元明天皇の和銅4年に、臣安万呂に、「稗田阿礼の記憶してきた勅語・旧辞を記録して献上せよ」としてまとめさせた。残念ながら、古事記の編纂範囲には、壬申の乱は入っていない。が、当然、権力側にとって都合の良いことが選ばれ、都合の悪いことは取捨選択されたであろうし、これが古事記であるといえる。

古事記の中には、稲羽の白兔や八俣の大蛇や天之若日子の矢など多くの挿話が入っているが、朝鮮や中国のみならず西域やヨーロッパにも同じような挿話があり、独創の話ではなく、極東の地に流れてきていたのでないかと思う。

先日の新聞に平城宮役人に唐人・ペルシャ人がいたという765年の木簡が発見されたというニュースがあったが、古代にもかなりの国際交流があったのでないかと推測する次第である。

それと、女性の生殖器に対する関心というか、これに対して矢になって近づいたり、夜這いで女性と交わるのが公然と表現されていることは当時の生活感として一般的であったのや、戦闘における正々堂々の戦いは表現されず、謀略の記述が堂々と天皇家の歴史であるという事なども驚きである。

また、神武天皇百三十七歳、孝安天皇百二十三歳、孝靈天皇百六歳、崇神天皇百六十八歳、垂仁天皇百五十三歳、景行天皇百三十七歳、応神天皇百三十歳と長命であるのは、内容の信憑性を疑わせるものである。

# 例会予定

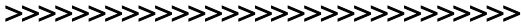
2016年

12月8日 木曜日 18:30 ~ 21:00  
テーマ : 未定  
場所 : 港区商工会館  
担当 : 未定

2017年

1月12日 木曜日 18:30 ~ 21:00  
テーマ : 未定  
場所 : 港区商工会館  
担当 : 未定

開催場所 : 港区商工会館



- ※ 会誌発送は、E-mail です。
- ※ 年会費はありません。
- ※ 「じょうはん」 発送のお申込は、  
E-mail : [info@iki2life.com](mailto:info@iki2life.com)  
まで、Mail でご連絡下さい。
- ※ 興味のある方にも積極的に転送してあげて下さい。
- ※ ホームページもご確認ください。  
<http://www.jouhan.com>



編集後記  
これまで4回に亘って「古事記中国語原本と翻訳」について検討して参りましたが、その総括として、城野先生の脳力開発の視点から古事記の内容とその歴史的環境等を整理したいと思います。皆様の積極的な参画を期待申し上げます。(古川)

## 港区商工会館へのご案内地図



東京都港区海岸 1-4-28 TEL03-3433-0862  
ゆりかもめ竹芝駅より徒歩6分、  
JR浜松町駅北口から徒歩およそ7分、  
都営地下鉄浅草線・大江戸線大門駅B2出口からおおよそ徒歩10分